

①高齢者等の活動拠点へのアクセス強化（P.63）

高齢者等の活発な移動に対応するよう、活動拠点への乗入れや、施設付近へのバス停の設置、活動時間に合わせたダイヤの調整など、アクセスの強化を検討する。

②人口集積地への路線バスの乗り入れ（P.63）

一人暮らし高齢者の増加を見据え、高齢化率が高い地域などにおいて、自宅からバス停までの距離を短縮できるよう、人口集積地付近への経路の見直しを検討する。

③都市機能誘導区域を結ぶバス路線の充実（P.64）

JR荒尾駅周辺と緑ヶ丘地区周辺の2つの都市機能誘導区域を結び運行している産交バス「倉掛線」「グリーンランド線」「八幡台線」、西鉄バス大牟田「グリーンランド線」を中心に、公共交通軸としてのバス路線の充実を図る。

④南荒尾駅と市内各高校のアクセス強化検討（P.70）

鉄道を利用して本市内の高校に通学する高校生を中心に、雨天時などの公共交通利用への転換を図るため、費用対効果などを踏まえながら「清里線」の通学時間帯の利便性向上を検討する。

⑤利用が低迷する路線等の見直し（P.75）

利用が低迷している倉掛線（北口経由）や八幡台（バスセンター発着）、グリーンランド線、長洲港線をはじめ、運行が非効率となっている長洲玉名線について、運行水準の見直しを検討する。

まとめ

路線再編については平成31年4月に実施する予定とし、網形成計画に記載の5つの再編ポイントについてバス事業者及び関係自治体と協議を行った上で、路線バス運行の効率化及び利用者増を目指した路線再編を実施したい。

なお、最終的な路線再編イメージについては次回の本活性化協議会にて報告することとする。